

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和8年9月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

令和8年10月2日07時30分（期間外）に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げました。その後、警報事項に変更はありません。

23日以降、山頂火口原浅部を震源とする地震がやや増加するなど地震活動に高まりがみられ、26日からは山頂火口原方向が上がる傾斜変動が認められました。また、10月2日（期間外）には地震回数が明瞭に増加し、傾斜変動量の増大も観測されました。10月3日（期間外）には地震回数が減少し、傾斜変動も鈍化しましたが、引き続き緩やかな変動が継続しています。

火山活動が高まっており、山頂火口原内で小噴火が発生する可能性があります。

火口から概ね4 kmの範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1-①～③、図2～5）

山頂に設置した監視カメラでは、昭和4年火口でごく弱い噴気を観測しました。引き続き、噴気活動は低調な状態です。

29日に国土交通省北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、前回の観測（2026年8月）と比べ、昭和4年火口をはじめとする山頂火口原内の各火口の状況に特段の変化は認められませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図6～8）

23日から24日頃にかけて山頂火口原浅部（主に海拔下1 km付近）で火山性地震がやや増加しました。26日頃から山頂火口原浅部（主に海拔下0 km付近）でふたたび地震が増加し、28日20時30分頃にはマグニチュード1.4（暫定値）のやや規模の大きな地震が発生するなど地震活動に高まりが認められているなか、10月2日00時頃から19時（期間外）にかけて地震回数がさらに増加しました。その後、地震活動は低調に経過しています。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図8～10）

26日13時頃以降、山頂火口原付近に設置した傾斜計で山頂火口原方向が上がる傾斜変動がみられています。10月2日00時から22時頃（期間外）にかけて傾斜変動量が大きくなりましたが、10月3日以降、鈍化しています。

GNSS連続観測では、2022年夏頃から2024年夏頃にかけて山頂部の一部基線でわずかな伸長が見られましたが、その後は鈍化し、以降は特段の変化は認められません。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び北海道のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』、『数値地図25000（行政界・海岸線）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

次の火山活動解説資料（令和8年10月分）は令和8年11月10日に発表する予定です。

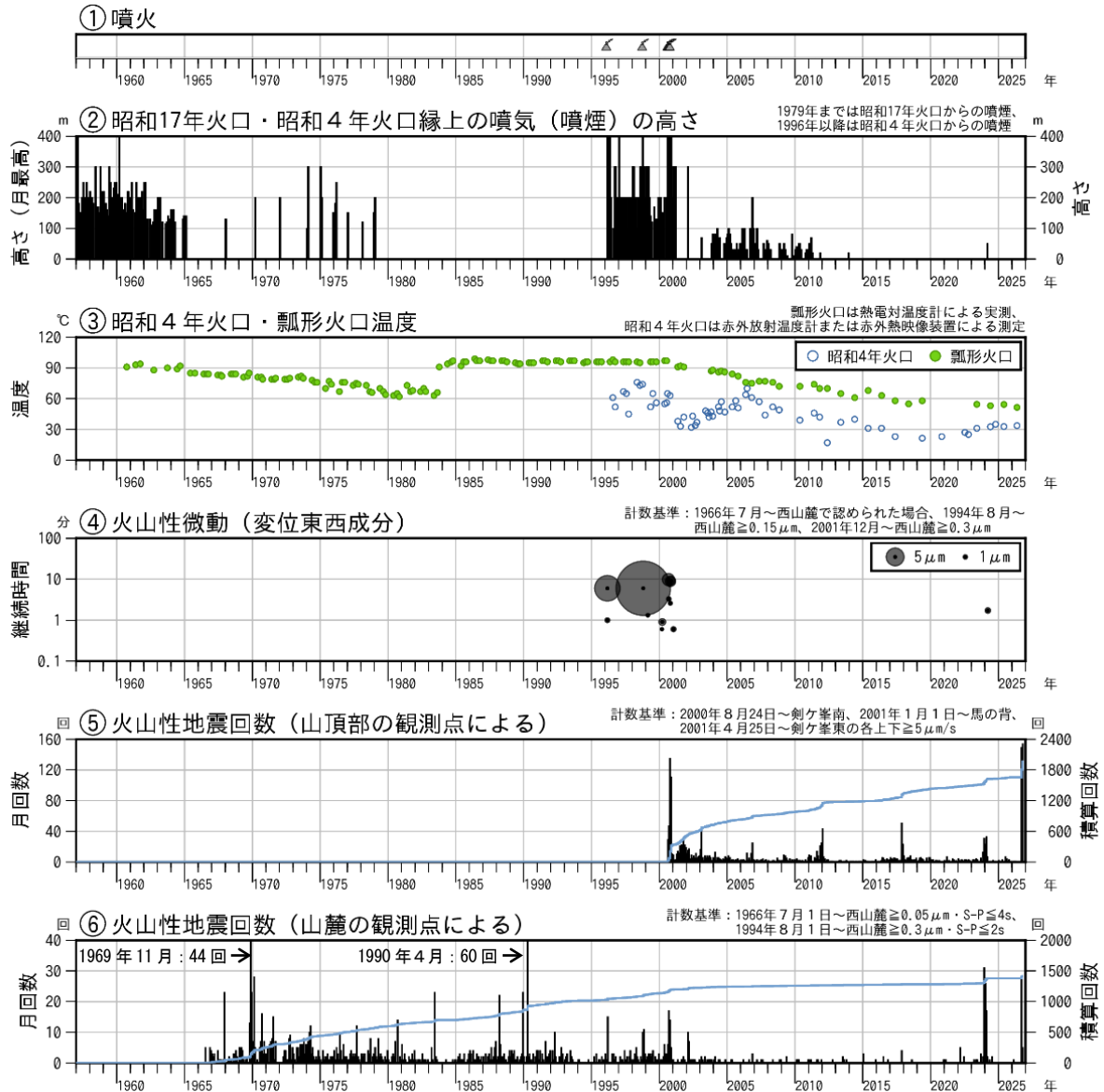


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2026年10月4日（期間外））
 各火口の位置は、図3及び図12を参照してください。
 ⑤⑥の棒グラフはそれぞれ別の基準で計数した火山性地震の月回数、青色の折れ線は
 積算回数を示します。



図2 北海道駒ヶ岳 南西側から見た昭和4年火口付近の状況（剣ヶ峰監視カメラによる）

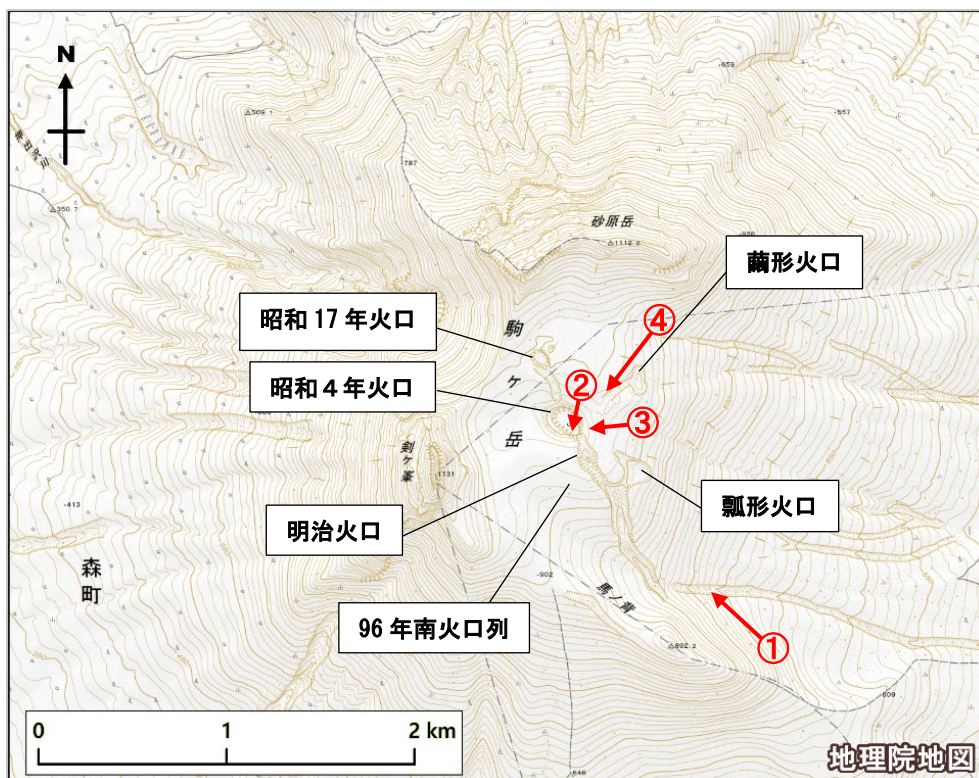


図3 北海道駒ヶ岳 周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）



図4 北海道駒ヶ岳 山頂火口原の状況（図3の①から撮影）

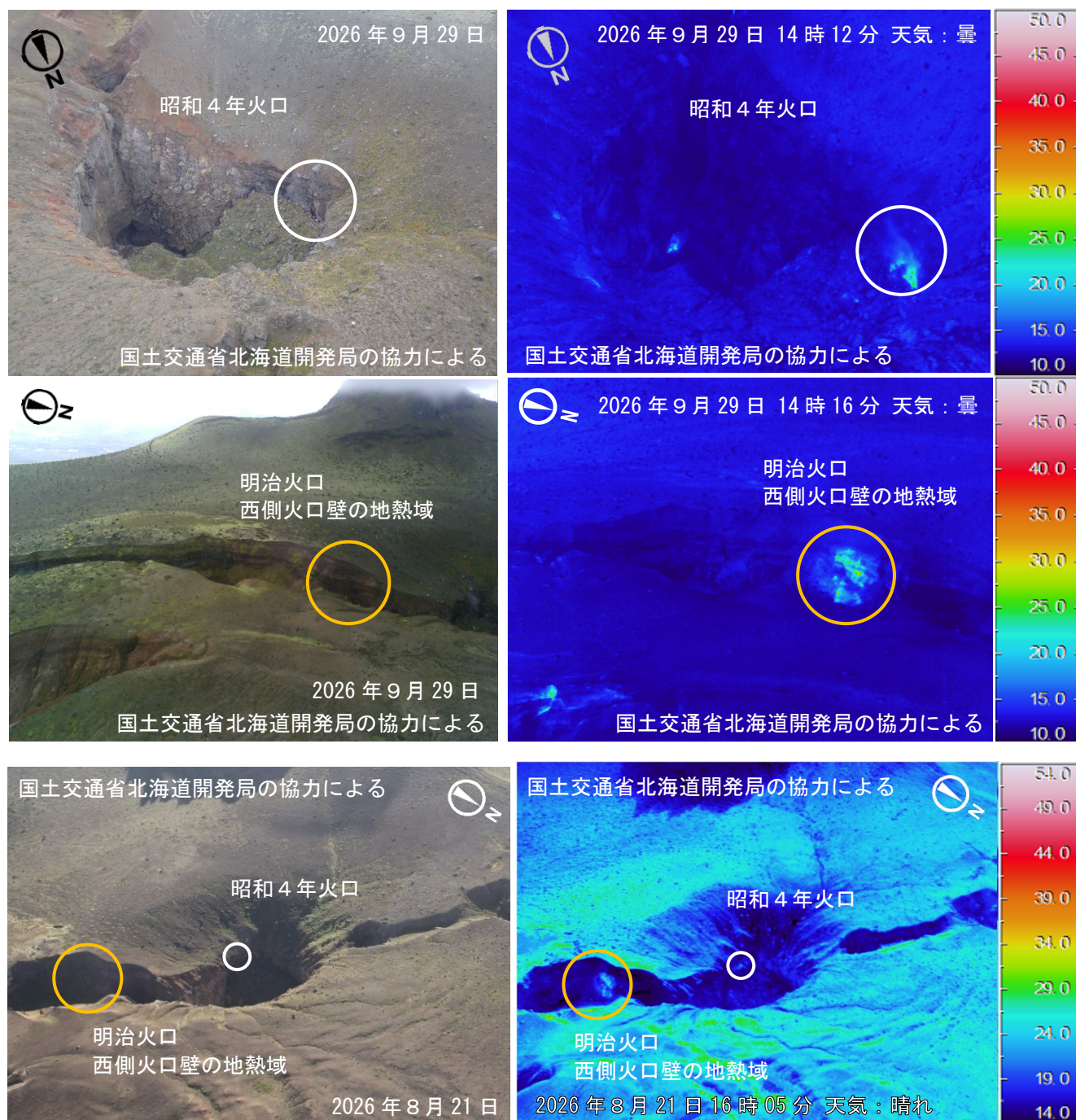


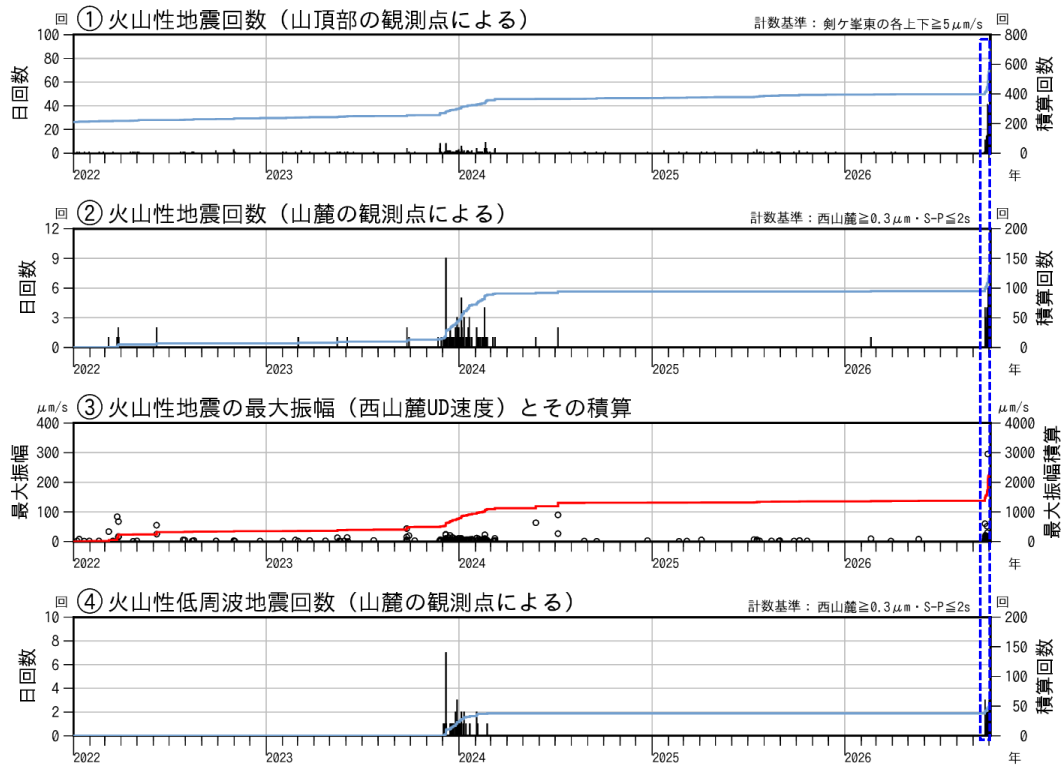
図 5 北海道駒ヶ岳 昭和 4 年火口及び明治火口の地表面温度分布

上段：北側上空（図 3 の②）から撮影

中段：東側上空（図 3 の③）から撮影

下段：北東側上空（図 3 の④）から撮影

- ・ 昭和 4 年火口では、南側火口壁のごく弱い噴気及び地熱域（白円内）を引き続き確認しました。
- ・ 明治火口西側火口壁に弱い地熱域（橙円内）を引き続き確認しました。



【上図青点線枠内】20日～10月3日(期間外)の拡大図



図6 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（2022年1月～2026年10月3日（期間外））

各火口の位置は、図12を参照してください。

①②の棒グラフはそれぞれ別の基準で計数した火山性地震の回数（上図：月；下図：時間）、青色の折れ線は積算回数、緑色の折れ線は前24時間積算回数を示します。

③のシンボル（○）は山頂点基準及び山麓点基準のいずれかを満たす火山性地震における西山麓観測点上下成分の最大振幅、赤色の折れ線はその積算を示します。

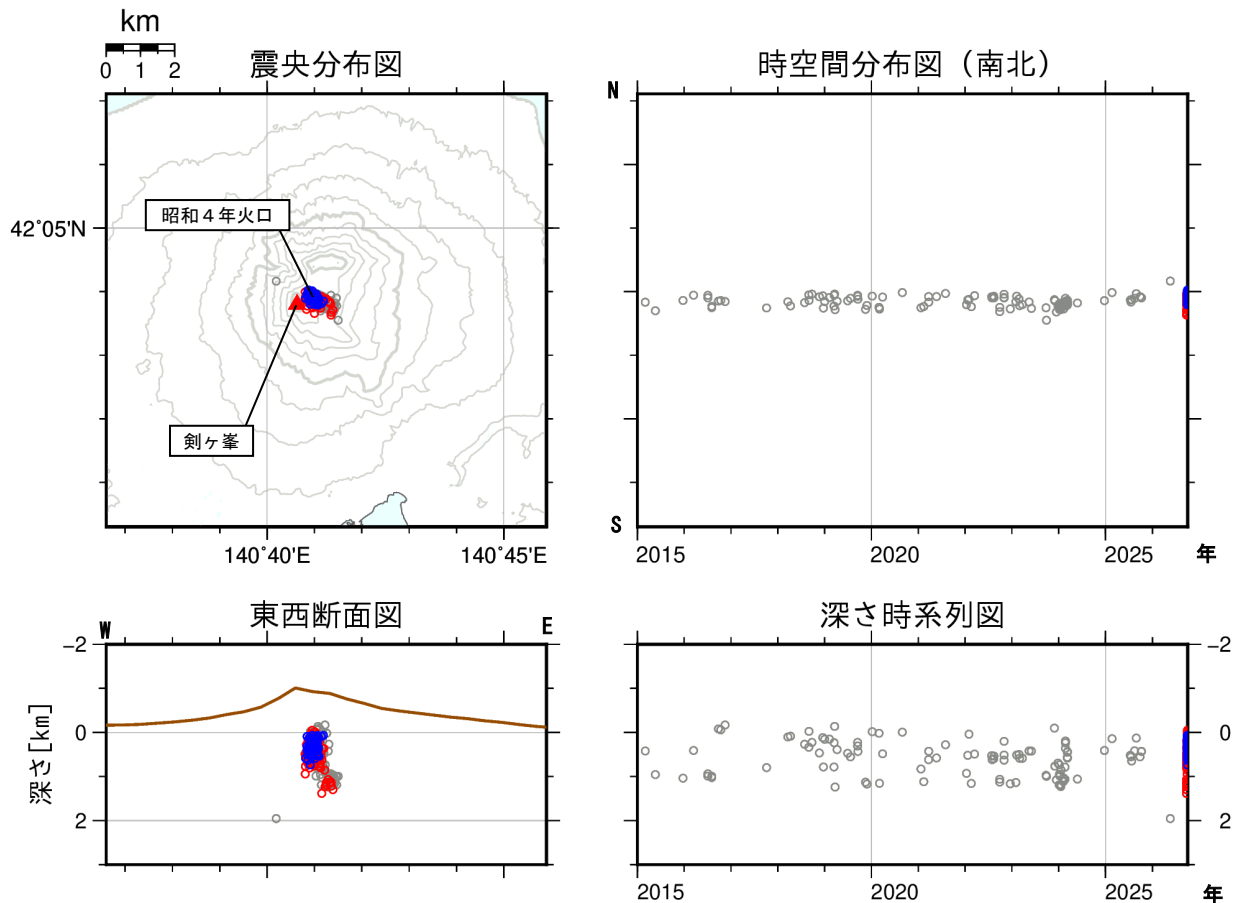


図7 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2015年1月～2026年10月3日（期間外））

- ：2015年1月～2026年8月の震源
- ：2026年9月の震源
- ：2026年10月1日～3日の震源

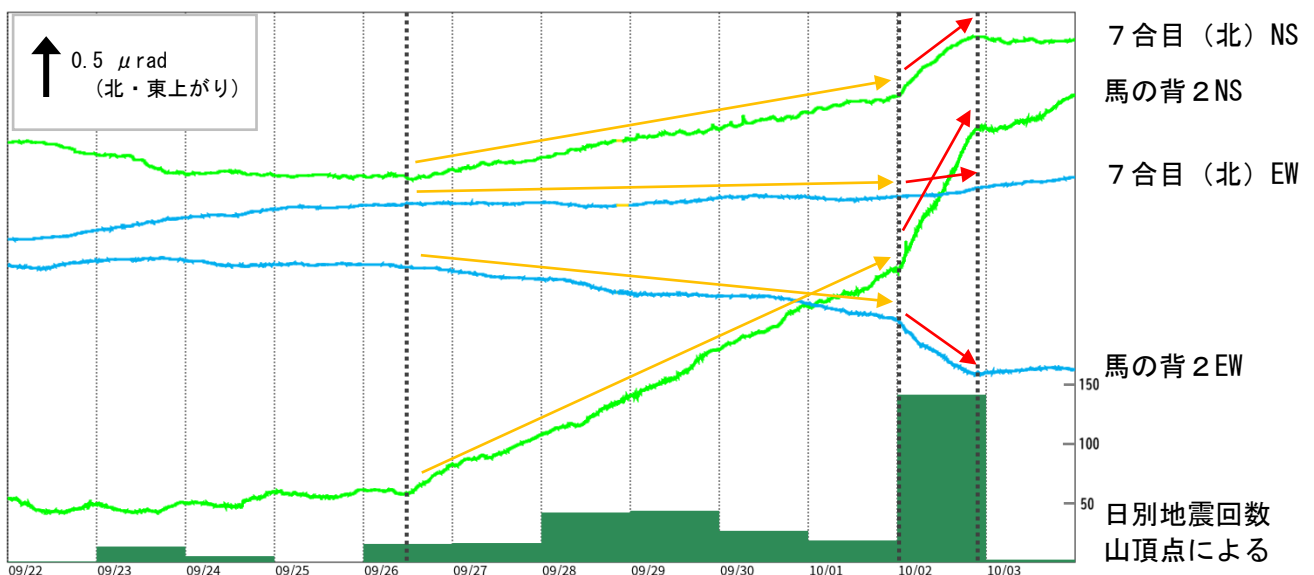


図8 北海道駒ヶ岳 傾斜計（分値）および地震回数の推移（22日～10月3日（期間外））

7合目（北）は観測点下500mに埋設したセンサーのデータを使用しています。

グラフの黄色部分はノイズによるステップを除去した区間を示します。

- ・26日13時頃から山頂火口原方向が上がる傾斜変動が認められていました（**橙矢印**）。
- ・10月2日00時から22時頃にかけて山頂火口原方向が上がる傾斜変動の変動量が大きくなりました（**赤矢印**）が、その後鈍化しています。

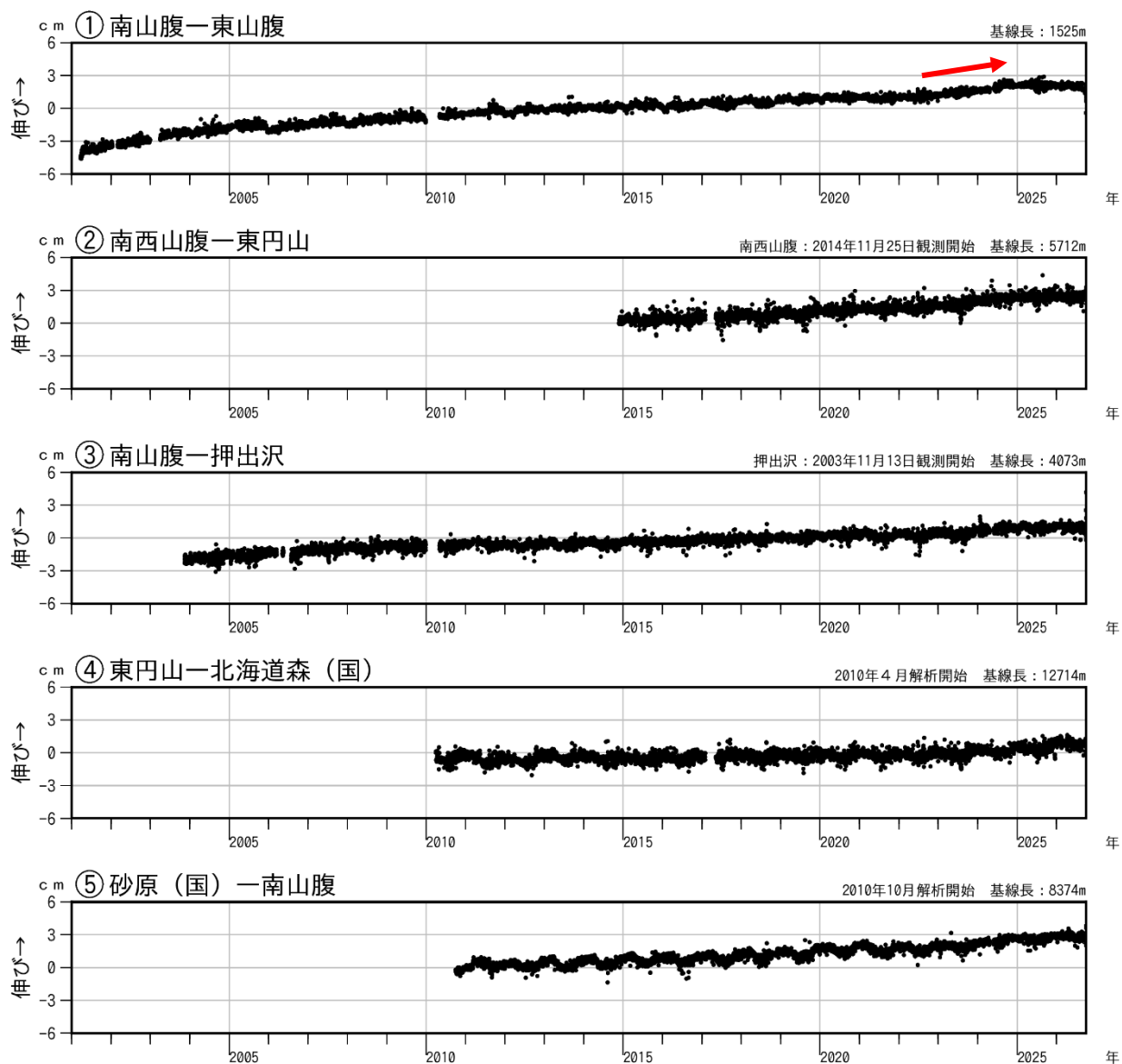


図9 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2026年9月）

グラフ①～⑤は図10の観測点配置図の基線①～⑤に対応しています。

グラフの空白部分は欠測を示します。

- ・2022年夏頃から2024年夏頃にかけて山頂部の一部基線でわずかな伸長（赤矢印）が見られましたが、その後は鈍化しています。
- ・長期的には、山頂火口原付近を挟む基線（基線①、③）で断続的な伸長が続いています。

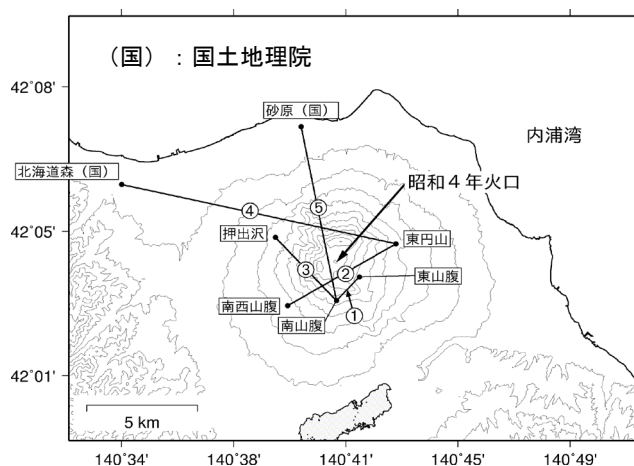


図10 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測の観測点配置図

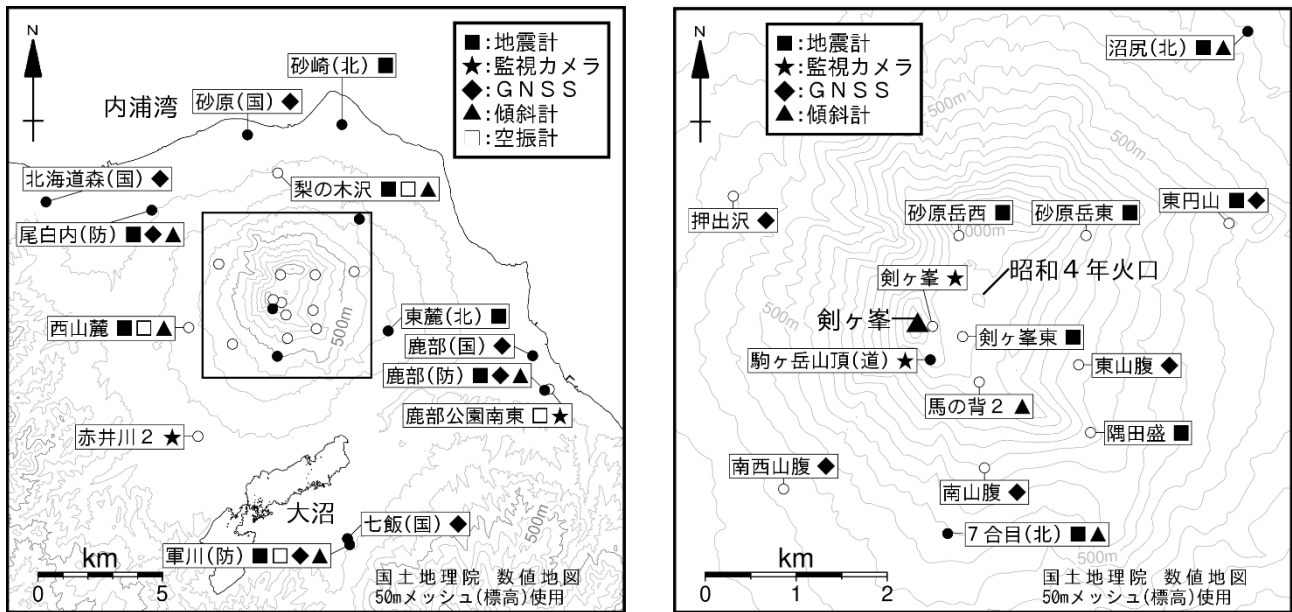


図11 北海道駒ヶ岳 観測点配置図



図12 北海道駒ヶ岳 山頂火口原周辺図